

第27回日本臨床微生物学会総会・学術集会  
共催セミナー3 (ナイトセミナー)

# 臨床微生物学的見地から 抗菌薬選択を再考する

座長 **萱場 広之** 先生

弘前大学大学院医学研究科臨床検査医学講座 教授  
弘前大学医学部附属病院 感染制御センター センター長

演者 **柳原 克紀** 先生

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 病態解析・診断学分野 教授  
長崎大学医学部 臨床検査医学 教授  
長崎大学病院 検査部部長

日時 2016年1月29日(金) 18:30~19:45

場所 **江陽グランドホテル 3階「白鳥の間」**

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町二丁目3-1 TEL:022-267-5111

本ナイトセミナーは整理券制です。

配布場所：ナイトセミナー整理券配布所（仙台国際センター展示棟）

配布日時：2016年1月29日(金) 12:00~17:30

【注意事項】

整理券はセミナー開始5分後に無効となります。

17:30以降に整理券に残部があれば、江陽グランドホテルにて配布する予定です。

共催：第27回日本臨床微生物学会総会・学術集会／塩野義製薬株式会社

# 臨床微生物学的見地から 抗菌薬選択を再考する

## 柳原克紀

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 病態解析・診断学分野 教授  
長崎大学医学部 臨床検査医学 教授  
長崎大学病院 検査部部長

---

抗菌薬選択は科学的に行われるべきであり、原因微生物を決定した後の標的治療が望ましい。しかしながら、実際にはエンピリック治療が行われる症例が多い。その理由として、原因菌が分からない症例が少なからず存在することや原因菌が判明するまで待つと予後が悪くなることが挙げられる。

適切なエンピリック治療を行うためには、微生物検査を励行し正確なデータを蓄積する必要がある。血液培養検査は感染症診療において重要な検査であり、その意識の高まりとともに全国的に検体数は増加している。施設ごとに薬剤感受性検査に基づくアンチバイオグラムを作成しておくことは、抗菌薬を選択する際に有用である。

微生物と抗菌薬の関係についても新知見が得られている。「Inoculum effect」は MIC を測定する際の接種菌量が増えると、測定された MIC が高くなるという現象であり、その機序は不明な点も多い。この現象は薬剤ごとに異なっており、重症で菌量が多い症例に対しては、影響を受けにくい抗菌薬を選択することが望ましい。ESBL 産生肺炎桿菌や緑膿菌を用いた我々の研究では、カルバペネム系が Inoculum effect の影響を受けにくいことが明らかになった。

感染症診断の新たなアプローチとして、質量分析装置や遺伝子検査が応用されつつあり、その有用性と課題についてもご紹介したい。臨床微生物学的視点に基づく抗菌薬選択について、ご参加の先生方と議論できれば幸いである。